

カラスガレイ 北西大西洋

Greenland halibut *Reinhardtius hippoglossoides*



管理・関係機関

北西大西洋漁業機関 (NAFO) (注) NAFO 条約海域に南北2系群あるが、本稿は日本 TAC 枠がある南系群に関する情報。

生物学的特性

- 最大体長・体重：雄 90 cm・7.7 kg、雌 109 cm・14.1 kg。体長は下顎先端～尾鳍基底、体重は全重量（代表的な成長式及び体長・体長関係に基づく）。
- 寿命：最大寿命は雄 17 歳、雌 33 歳（研究例）。資源評価では 10 歳以上を Plus group として取り扱う。
- 性成熟年齢：雄 9～10 歳、雌 12～13 歳（50%成熟年齢）。
- 産卵期・産卵場：周年（夏・秋に多い）。グランドバンク・フレミッシュパス（NAFO 海域 3LM）。
- 索餌期・索餌場：秋（10～11 月）に活発。グランドバンク・フレミッシュパス（NAFO 海域 3LM）。
- 食性：魚類（タラ、ゲンゲ、シシャモ、アカウオ等の幼魚）、甲殻類（エビ）、頭足類（イカ）等。
- 捕食者：シャチほか。

利用・用途

食用（生鮮・冷凍）で販売され、惣菜（煮つけ、ムニエル、ソテー、唐揚、刺身）や寿司ネタとして利用。

漁業の特徴

主に着底トロールで漁獲される。NAFO 発足以降 43 年間（1979～2021 年）の平均漁獲量の多い国はカナダ（38%）、スペイン（28%）、ポルトガル（14%）、日本（5%）、ロシア（5%）でこの5か国で全体の90%を占める。

漁獲の動向

本格的な漁業が開始されたのは 1964 年からで、漁獲量は 4,300 トンから 7 年後の 1970 年に 3.7 万トンとなり 9 倍近く急増した。その後 1978～1980 年、1992～1994 年及び 2000～2003 年にあった 3 回の漁獲量ピーク期（平均漁獲量各 3.5 万、5.4 万、3.2 万トン）以外は、減少傾向が続き現在に至っている。最近 5 年間（2017～2021 年）の平均漁獲量は 1.6 万トンで、3 回目のピーク時の漁獲量の 49%と低いレベルにある。

資源状態

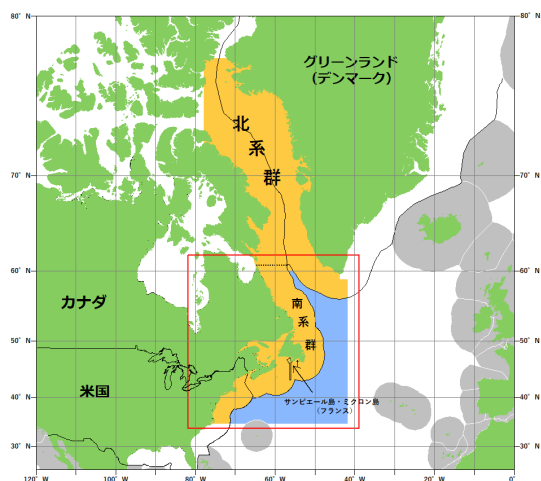
最新の資源評価は 2020 年 6 月の NAFO 科学理事会で実施された。本資源評価の目的は、TAC の決定に使用されている管理戦略評価 (MSE) のパフォーマンスをレビューすることである。資源評価は MSE のオペレーティングモデル (OM) で使用されている統計的年齢別漁獲尾数モデル (SCAA) 及び拡張型 SCAA 状態空間モデル (SAM) により実施された。本資源評価は MSE の OM で合意されたベースケースを用いて実施された。両者による資源評価結果に基づく神戸プロットを図に示した (1975～2019 年)。B は漁獲対象 (5～9 歳) 資源量。2019 年の資源状態は両モデル共にイエローゾーン (資源量は乱獲状況であるが F は MSY を下回りやや回復傾向) である。資源状態の経年動向は、両モデルで概ね似ているが細かな動きは異なる。その理由は両モデルで設定した仕様の違い (特に親子関係の有無) によるものと考えられている。

管理方策

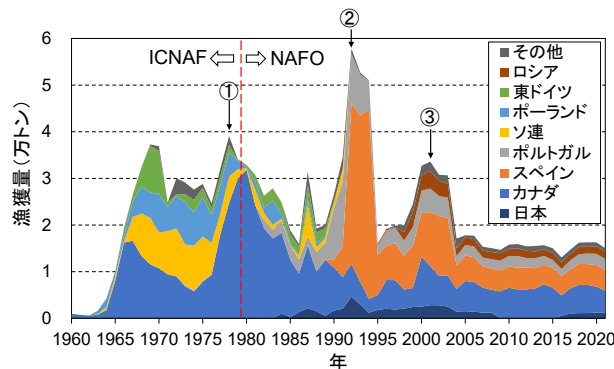
主な管理方策は MSE に基づく漁獲管理ルール (HCR) で、2018～2023 年 (6 年間) の TAC 決定に運用。2023 年の TAC は全体で 15,156 トン (日本割当 1,151 トン)。その他に、VME (脆弱な海洋生態系) 保護のための禁漁海域設置、混獲・投棄規制、漁獲体長最小規制 (30 cm)、網目規制 (130 mm) 等。

カラスガレイ（北西大西洋）の資源の現況（要約表）	
資源水準	低位
資源動向	横ばい
NAFO 海域における世界の漁獲量（最近5年間）	14,600～16,300 トン 最近（2021）年：15,000 トン 平均：15,693 トン（2017～2021 年）
我が国の漁獲量（最近5年間）	1,024～1,253 トン 最近（2021）年：1,253 トン 平均：1,141 トン（2017～2021 年）
管理目標	2037 年までに B（漁獲対象資源）を B_{MSY} レベルに回復（MSE の管理目標）
資源評価の方法	統計的年齢別漁獲尾数モデル（SCAA）及び拡張型 SCAA 状態空間モデル（SSM）
資源の状態	神戸プロット黄色ゾーン。 $B < B_{MSY}$ （乱獲） $F < F_{MSY}$ （適正）。B は漁獲対象（5～9 歳）資源量
管理措置	MSE の枠組みで設定された HCR、混獲・投棄規制、漁獲体長最小規制（30 cm）、網目規制（130 mm）、VME の禁漁海域設置ほか
最新の資源評価年	2020 年
次回の資源評価年	2023 年

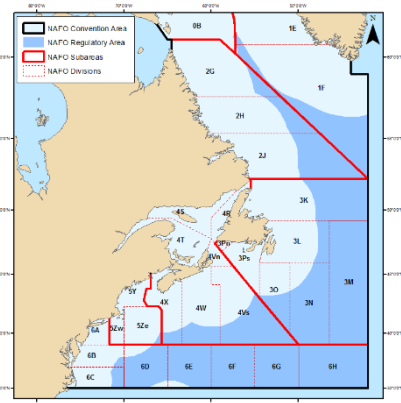
（注）NAFO 条約海域（南系群）操業域（統計海域 2+3KLMNO）の情報に基づく



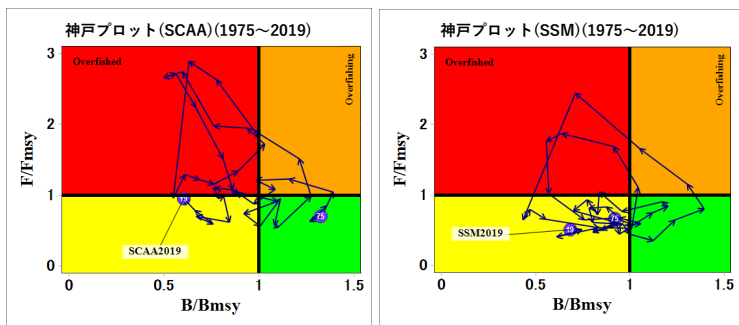
NAFO 条約海域＝管轄海域（空色）＋EEZ（オレンジ色）
 （注1）カラスガレイには南北2系群あり、本稿では日本TAC枠のある南系群の情報をまとめた
 （注2）赤枠内の詳細は下図



NAFO 条約域（統計海域 2+3）におけるカラスガレイ国別漁獲量（1960～2021 年）
 （注1）ソ連は1991年まで、1992年以降ロシア。東ドイツは1990年まで、それ以降（統一）ドイツの操業はない
 （注2）その他（累積漁獲量順）：フェロー諸島、西ドイツ（1990年まで）、仏領サンピエール島・ミクロン島、ノルウェーほか
 （注3）①、②及び③は、3回の漁獲量ピーク年を示す



NAFO 条約海域南部の統計海域
 南系群操業域＝カナダ EEZ 内（海域 2+3K）＋日本ほか加盟国 TAC 枠のある公海域（3LMO）



SCAA と SSM による資源評価結果に基づく神戸プロット（1975～2019 年）